福井におけるミズベリングの取り組み

寺田　哲也

近畿地方整備局　河川部　水災害予報センター　（〒540-8586大阪府大阪市中央区大手前1-5-44）

ミズベリングプロジェクトとは，かつての賑わいを失ってしまった日本の水辺の新しい活用の可能性を想像していくプロジェクトである．

2015年3月12日，福井県で「ミズベリング越前若狭会議」が開催された．福井のミズベリングプロジェクトのスタートである．全国一斉社会実験として行われた「水辺の乾杯」や水辺の利活用を楽しく創造する「ワークショップ」など，福井の水辺の賑わいを取り戻すため様々な活動が行われてきた．行政と地域が一体となって取り組む中，水辺にも人々にも変化が表れてきた．

キーワード　水辺　利活用　地域活性化

1. はじめに

ミズベリングとは，かつての賑わいを失ってしまった日本の水辺の新しい活用の可能性を創造していくプロジェクトである．ミズベリングは「水辺＋RING（輪）」「水辺＋R（リノベーション）＋ING（進行形）」の造語である．水辺に興味を持つ市民や企業，そして行政が三位一体となって，水辺とまちが一体となった美しい景観と新しい賑わいを生み出す取り組みが広がりつつある．

2015 年 3 月 12 日，福井でのミズベリングの取り組みのキックオフとしてミズベリング越前若狭会議が開催された．福井のミズベリングプロジェクトのスタートである．このミズベリング越前若狭会議からこれまで約１年間，水辺に関する様々な新しい取り組みがこの福井で行われてきた．本稿では，この期間，福井の水辺で一体どのような取り組みが行われ，そして何がどう変わったのかを報告する．

2. 福井の水辺について

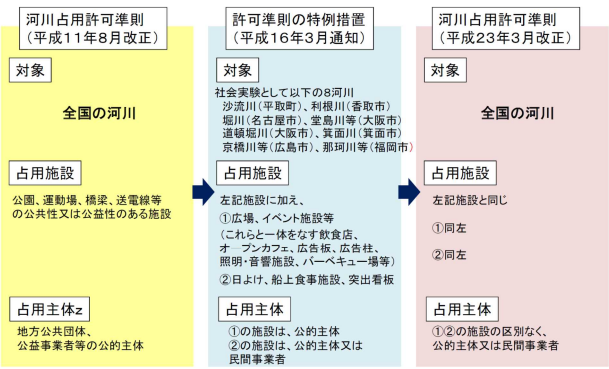
私たちのくらしにとって水辺は，これまでの歴史や文化をみても，日常生活，産業，憩いの場といったあらゆる観点で密接な関係にあり，多大な恩恵を受けてきた．

しかしながら，高度経済成長期を経て急激な環境の変化の中で，水辺は人々の暮らしや意識の中から遠ざかり，かつての賑わいを失いつつある．

福井の水辺をみると，福井市街地を流れる足羽川沿いに，昔からの料亭やホテルが並ぶ「浜町」という地域がある．ここはかつて，城下町の水際・物流の玄関口として水辺と密接につながり賑わっていた．しかし，現在ではその素晴らしい水辺空間が人々の暮らしから遠ざかった状態となり，浜町に面する足羽川の河川敷では遊歩道が整備され，駅から徒歩 10 分程度と利便性が良いのにも関わらず，日常は閑散としている．＜写真－1＞

＜写真－1　足羽川（幸橋付近）＞

一方全国をみると，近年各地で水辺が持つ魅力や価値を再認識し，閉ざされたた河川空間を再び人々の生活に取り入れ，賑わいを取り戻そうとした動きが広がっている．水辺が持つ自然や美しさを利用し観光資源として活用したり，河川敷地占用許可準則の改正による規制緩和（図－1）によって、オープンカフェやレストランを出展されるなど地域活性化を図る取り組みがみられる．（写真－2，3）



＜図－1　河川敷地占用許可準則の緩和＞

＜写真－2 広島県京橋川＞ ＜写真－3 東京都隅田川＞

こうした背景の中，福井においてもこの自然や歴史・文化が詰まった魅力ある川の価値をもっと活かし，生き生きとした地域づくりに繋げていけないか？こんな目標をもって，これに共有して頂ける地域の人々や関係者を集い協力しあって，ミズベリングプロジェクトをスタートさせた．

3. 福井のミズベリングプロジェクト

(1) 水辺の利活用の可能性を広めよう！

a) キックオフプロジェクト
ミズベリング越前若狭会議（2015 年 3 月 12 日）

福井ミズベリングのキックオフプロジェクトとして 2015 年 3 月に「ミズベリング越前若狭会議」を開催した．

越前若狭会議の目的はミズベリングのきっかけ作りである．ミズベリングとは？水辺で何ができるのか？福井の川をどう活かすか？このようなテーマに対して，全国で講演しているミズベリングプロデューサー等を招き，講演やトークセッションを開いた．（図－2）

＜図－2　ミズベリング越前若狭会議　ロゴ＞

約 120 名もの人が参加し，これまで考えたこともなかった水辺空間を創造するということについて，初めて耳にする「ミズベリング」というキーワードをもって，これから何かが始まるというインパクトを与えた．（写真－4）

＜写真－4　ミズベリング越前若狭会議＞

b) 水辺に集まって乾杯
ＭＩＺＣＡＮ（2015 年 7 月 7 日）

ミズベリング全国一斉の社会実験として，「7 月 7 日午後 7 時 7 分」に各自飲みたいもの・食べたいものを近くの水辺に持参し乾杯をするという水辺関心想像アクション「水辺で乾杯（ＭＩＺＣＡＮ）」が開催された．

福井においては，上述で紹介した福井市の「浜町」が面する足羽川沿いにおいて，開催を呼びかけたところ 100 名を超す参加者が集まり水辺で賑わった．ただ水辺に集まって乾杯するというだけの企画ではあるが，水辺に関心をもってもらうためには，まず水辺にきてもらうことが大切である．水辺で何かをするには時間もかかることも多いが，明日から始められることもたくさんある．水辺は身近なものであることを印象づけた．（写真－5）

＜写真－5　ＭＩＺＣＡＮ（足羽川）＞

c) 水辺空間の利活用を具体的に創造する
越前若狭会議ミッション会議
（2015 年 11 月 26 日小浜市、12 月 1 日福井市）

次のステップとして水辺空間の利活用をより具体的に考えるため，水辺に関心がある方を集いワークショップを開催した．

11 月に第一弾として「若狭ミッション会議」を小浜市で開催した．

ファシリテータを迎え，グループワークの形式で意見を出し合う．水辺でやりたいことを提案し，キャッチコピーをつける．そして，最後に紙芝居で発表するなど，楽しく自由に若狭を代表する北川，南川においてふるさとの水辺を利活用の方法を考えた．（図－3）

12 月にはワークショップ第二弾として「足羽川ミッション会議」を福井市で開催し，福井市街地を流

れる足羽川についてアイデアを出し合った．

足羽川で何がしたい？何があったらうれしい？といった発想のもと川遊びの道具を貸し出す案や，フェリーにカフェの機能を持たせる「Cafe リー」といった案が出され，参加者の水辺利用の意識を高めた．（写真－6）

ステップ①

グループに分かれて川を活かしてやりたいことを書き出す．

ステップ②

6 つのテーマにカテゴライズし、このうちの一つについて話し会いを深める．

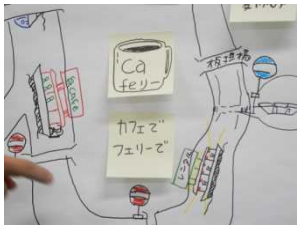
ステップ③

話し合いによって決まったやりたいことにキャッチコピーをつける．

ステップ④

最後に紙芝居を作成して、魅力ある水辺の利活用を発表．

＜図－3　ワークショップのフロー＞



＜写真－6　足羽川ミッション会議の様子＞

(2) 福井の水辺空間を利活用する

福井ではこれまでも水辺空間を活用した取り組みが行われてきている．

a) 河川敷におしゃれな空間を おしゃれなリ・ＢＡＲ（2015 年 8 月 28 日～30 日）

九頭竜川水系日野川で，毎年８月下旬に河川敷に地元のレストランやＢＡＲなど並んだおしゃれな空間が出現する．これは，「リバビズ大学 in 日野川流域交流会」という民間団体が主体となって開催しており，今回で 4 回目である．雨模様にもかかわらず 3 日間で約 2,000 名もの来場者があった．（写真－7）

＜写真－7　おしゃれなリ・ＢＡＲのチラシ＞

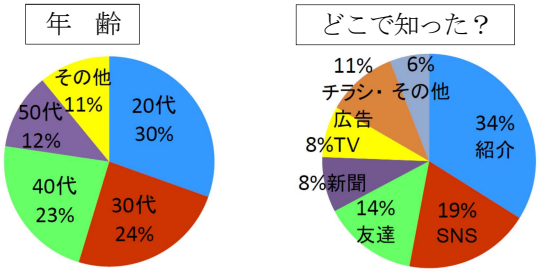
オープンカフェで日野川の流れを眺めつつ，ミュージシャンによるライブ演奏やダンスと花火のコラボレーションなどの本物の演出を体感することができる．

この取組の大きなポイントは，運営主体が行政などからの公的支援を受けずに独立採算で運営していることである．普段は街中でレストランを営んでいるプロのシェフが，本物の味を提供し，お客はその対価を支払うということで水辺でのビジネスが成立している．（写真－8）

＜写真－8　おしゃれなリ・ＢＡＲ（日野川）＞

開催場所の越前市以外や県外からの来場者も多く，ツーリズムとして地域経済発展や賑わいの創出を図るだけでなく，「おしゃれ」にこだわり，若手を引きつける魅力を備えることで，少子化・定住化対策も狙いにしている．アンケートの結果では，来場者の多くが 20～40 代の世帯で多く占め、紹介やＳＮＳでこの取り組みを知りった．（図－4）

こうした地域活性化の取り組みを後押ししようと、河川敷空間に仮設大型テントの埋設型アンカーを越前市が設置することを決めるなど行政側も変わり始めている．



＜図－4　アンケート結果＞

b) 日野川の魅力を発見する

そうだ！川にいこう（2015 年 8 月 2 日）

8 月上旬には，越前市内の日野川において，川や砂礫河原の生き物観察や川遊び体験など，日野川の魅力を発見し，川への関心を高めるイベント「そうだ！川に行こう！」が開催された．

これは，地元の「日野川に砂礫河原をとりもどす会」が毎年開催しているもので，今回で 7 回目となるものである．

アユの手づかみ漁，E ボートでの川探検，日野川水族館と称した魚の展示，河川敷でのお泊まりキャンプなどを催し，たくさんの親子連れが水辺と接する機会を創出している．福井河川国道事務所も自然再生事業の一環として砂礫を使ったストーンペイントの出店をしている．（写真－9）

＜写真－9　そうだ川にいこう（日野川）＞

(3) 足羽川の水辺空間の利活用に向けて

a) 足羽川の水辺でワインを

川ＴＥＲＲＡＣＥ（2015 年 11 月下旬　6 日間）

ミズベリング越前若狭会議やワークショップ等の開催により，賑わいある水辺空間利用に向けた取り組みを続ける中，足羽川では実際にその空間活用に向けた動きが始まった．

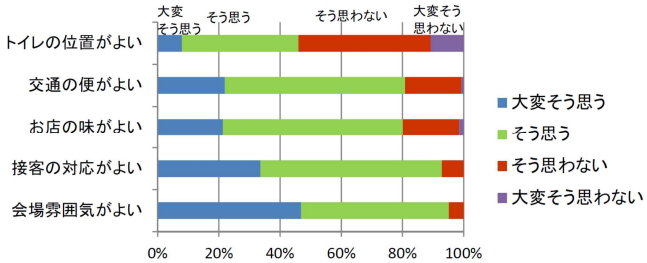
「川ＴＥＲＲＡＣＥ」は，浜町が面する足羽川の堤防上で開かれたワインバーである．福井市の酒販店がワインバーを出店し，参加者の方々は足羽川の夜景を眺めながらソムリエの勧めるボジョレヌーボーを楽しむことができる．週末のみの営業であったが、5 日間で 400 人が訪れた．（写真－10、11）

＜写真－10　川ＴＥＲＲＡＣＥ（足羽川）＞

＜写真－11　足羽川でワインを楽しむ＞

今後の活動の更なる展開を見据えてアンケート調査を実施。（図－5）

アンケートの意見には，こんなおしゃれな場所が出来るのを待っていた．これから継続的にオープンして欲しいといった高評価を得られ、更なるメニューの充実やテラス席の拡大など今後の活動が期待される意見が多く出た．



＜図－5　アンケート結果＞

b) 水辺の賑わいに向けた新たな取り組み

浜町足羽川利用促進協議会の発足（2016 年 2 月 29 日）

川ＴＥＲＲＡＣＥが開催されることにより水辺空間を利活用できる可能性が大きく広がった．この川ＴＥＲＲＡＣＥの開催や今回の一連のミズベリングプロジェクトの取り組みの影響を大きく受けたのが足羽川に接する地元浜町である．ミズベリングプロジェクトを推進し、足羽川において地域の賑わいと魅力ある水辺空間を創出，そして浜町地域の活性化を図るため，平成 28 年 2 月「浜町足羽川利用推進協議会」が発足した．

足羽川の河川敷の占用許可取得も視野に入れ，自立的な運営に向けて活動していく．今年 4 月には，川ＴＥＲＲＡＣＥの第 2 弾を本協議会が主催として開催し，その活動の第 1 歩を踏み出している．

4.　ミズベリングプロジェクトをとおして

ミズベリングプロジェクトをとおして感じたことは，日頃から川に関心をもった人達がその地域に必ず存在し，「水辺」が持つ美しさや楽しさ，癒やしなどといったそのすばらしい可能性を引き出し，水辺に賑わいをとり戻そう，ビジネスをしよう，地域を活性しようとする人達がいることである．

今回のプロジェクトにおいても，地域の人々，大学，企業，行政など様々な分野の人々の協力によって進め

てこれた.

ミズベリング越前若狭会議やミッション会議の主催者として活動した「リバビズ大学 in 日野川流域交流会」は，これまでも人々の関心を高める魅力ある川づくりに向けて活動してきたが，今年１月には河川協力団体に指定され，これからますますの活動が期待できる.

足羽川と地域の賑わいを取り戻そうとミズベリングの思想を持って発足した「浜町足羽川利用促進協議会」については，ミズベリングプロジェクトの大きな成果といっていいだろう.

我々行政は，こうした水辺に関心を持つ人々にミズベリングのそのきっかけを与え，一体となって活動し，そして継続して支えていくことが大切ではないかと考える.

5. おわりに

2015 年 3 月に開始した福井のミズベリングプロジェクト．これまでわずか約１年間の活動だが，「水辺で何かができる」という意識は着実に変化している．2016 年３月には，これまで１年間の活動の区切りとして「ミズベリング越前若狭会議２ｎｄ」を開催した.

この会議では、主に福井の水辺での取り組みをテーマにその活動事例の講演や今後の水辺の利活用についてワークショップを行った．1 年前にキックオフとして開催した越前若際会議とは明らかに様子が違う．ミズベリング開催した事務局も参加したメンバーも積極的に水辺空間を利用して何かをしようとする意識がみられる．（写真－12）

＜写真－12　ミズベリング越前若狭会議２ｎｄ＞

この変化が１年間のミズベリングプロジェクトを通じて変わったものであれば，たいへん大きな進歩であり，これからも持続的に継続していかなければならない.

そして，福井のミズベリングが引き続き展開され，地域と一体となった賑わいある水辺づくりがこれらも続くよう，我々行政が支えていく必要がある.

※本論文の内容は，著者の従前の所属である福井河川国道事務所調査第一課における業務に基づくものである.

謝辞：本論文の作成にあたって，写真やアンケート調査結果のデータを提供頂いた「リバビズ大学 in 日野川流域交流会」に深く感謝の意を表す.